

図書館だより



上宮太子高等学校
第7号

2020年12月 発行

日本文学にハマっています♪パート2



先月号で、三島由紀夫のことを取り上げたら、「文豪の生涯(エピソード)や本の内容を知りたい」という意見があったので、参考になるよう、本の紹介雑誌「ダ・ヴィンチ」から引用したものを載せてみます。何十年も読まれる本って、何か魅力があるのだろうか、と感じます。たまたま今回、三島由紀夫にハマっていますが、今月は三島由紀夫が嫌いな小説家だと言っていた「芥川龍之介」を紹介したいと思います。なぜ嫌いなのかは、調べてみましょう(笑)主人公:葉蔵みたいな最低人間なのに、魅力的?振り回されるのに、愛されたい?私はそんな人はむしろ嫌なんですけど…。

『人間失格/太宰治』 主人公の葉蔵は、東北の裕福な家庭に生まれた。周りの人間と

同じ感覚を持てずに苦悩し、それゆえ彼は道化を演じることに徹して育った。女中や下男から大人の汚さを見せつけられながら、ただ笑っては周りの機嫌をうかがっていた。中学性の頃、貧弱な同級生である竹一に道化を見抜かれ、彼は人間に対してさらなる恐怖を抱くようになる。そして旧制高校に入り、堀木という先輩から、酒・煙草・淫売婦・左翼思想などを教えられ、それらに浸って人間や世の中に対する恐怖を紛らわすようになる。そんな生活の末追い詰められた彼は、ツネ子という人妻と一夜を過ごし、心中未遂をする。ひとりだけ生き残った彼はヒラメという男に引き取られるも、すぐに居心地が悪くなり逃げ出す。彼はシングルマザーやバーのマダムなど、破壊的な女性関係にはまり込み、しかし今度は幸福であることを恐れて逃げ出す。その後、煙草屋の純粹無垢な娘と結婚し、一時的に平穏で幸福な日常を手に入れた。しかしある晩、その妻は商人に強姦されてしまう。純粹な彼女が世間に対して持っていた「信頼」が汚されたことで、彼は多大なる恐怖に襲われる。絶望の淵に立たされた彼はアルコール中毒になり、睡眠薬を使って自殺未遂を起こす。その後彼はモルヒネ中毒にかかってしまい、薬屋からつけ払いで何度もモルヒネの注射液を買うようになる。返済不能なほどのつけが溜まり、彼は薬屋の奥さんとも関係を持つようになる。周りから狂人のレッテルをばり貼られた彼は、ついに精神科病棟に強制入院させられる。その後故郷に引き取られると廃人のようになり、ただ過ぎ去る時間の中に佇んでいる。

文=K(稲)

【開館時間】 ※会議や行事などによって変更することがあります

昼休み 12:40~13:05

放課後 (月・金)16:35~18:00 (火・水・木)16:10~18:00

(土)13:30~16:30

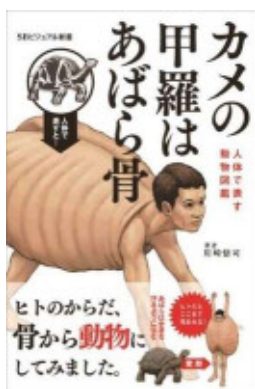
図書館だより



上宮太子高等学校
第8号(増刊号)

2020年12月 発行

クリスマスですが、自粛…。だから読書♪



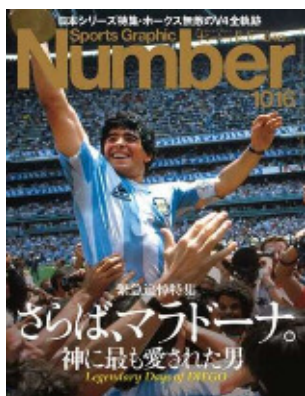
冊です。

『カメの甲羅はあばら骨～人体で表す動物図鑑～/川崎悟司』
実はちょうど1年前に販売された本で、クリスマスプレゼントとして子どもに買ったことを思い出しました。(ちなみにこれだけじゃなく、ほかのプレゼントも渡しましたよ!) 読書と言いつつ、図鑑を紹介してしまいましたが、これがまた面白いんです。臓器を包み込んでいるあばら骨(肋骨)がまさか甲羅なんて思ってもみなかったことに衝撃だし、何よりもその図がシュールすぎて楽しい。ほかにもゾウやカエルなども載っています。図書室にも置きたい一冊です。なんでわざわざクリスマスに紹介してしまったのか…。でも、家族で笑ってほしい一冊です。



あらゆる分野のレジェンドたち

今年も、様々な分野で活躍された方が亡くなりました。その特集を組む雑誌も多くありました。上宮太子でも定期購読している『Number』でも野村克也さん、マラドーナの追悼特集がありました。バックナンバーも読めるので、気軽に声をかけてくださいね。一時代を築き上げた人たちが何を考え、何を実行してきたのか、人生の指南になるかもしれません。



また、コロナウイルスに関する最新研究データなどが載っている『Newton』も一読の価値あり。コロナウイルス禍による心理の分析などは面白い発見がりますよ。こちらも声をかけてくれればバックナンバーを出しておきます。

あまり本を読まない人たちからすれば、本を読むことってハードルが高いかもしれませんが、雑誌からでもいいのです。雑誌で興味を持った記事があればそこから掘り下げて、その人の著書やエピソードを探る、知りたいという好奇心ってとっても大切な衝動です。この衝動をネットや SNS だけでなく、本から収集してみましょう。

